くらし取材班

5金リポート

ユニバーサルデザインを考える

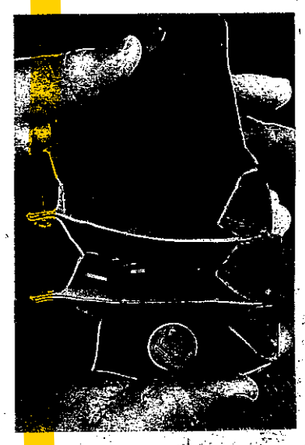
私たちの街は使い

の行き先や出発時刻を示す電光掲示が並ぶ。「（目に障害のない）晴眼者は遠くから見やすいだろうが、私には全く見えない」。目線の高さの掲示にくっつきそうなほど顔を近づけた。「この距離でやっと見える」

2人で階段を下りた。緒方さんは踏み面を指した。「先端に色が施してあると境目がはっきり分かる。色の違いがないと坂道のように真っ平らに見えて怖い」

歩道に出ると日が差した。緒方さんは「まぶしくて濃霧の中にいるようだ」とサングラスをかけた。渡辺通りにある横断歩道の前へ。20～30㍍先の信号機が見えないという。「周囲の

▲西鉄福岡（天神）駅の電光掲示を見る緒方さん。目線と同じ高さは識別できるが、上の方は見えない



緒方さんの小銭入れ。小さな袋ごとに硬貨の種類を分けている

階段の踏み面の先端に色づけされていると段差を見分けやすい

視覚や手指などに障害や症状がある人向けに、インターネットの公式サイトにユニバーサルデザインを導入する自治体や企業が増えている。利用者の特性に応じて文字の大きさや配色、行間やアイコン（機能を表示する図形）の間隔を調整するシステムだ。コロナ禍でネットの利用機会は増しており、多様な需要に応える動きが広がりつつある。

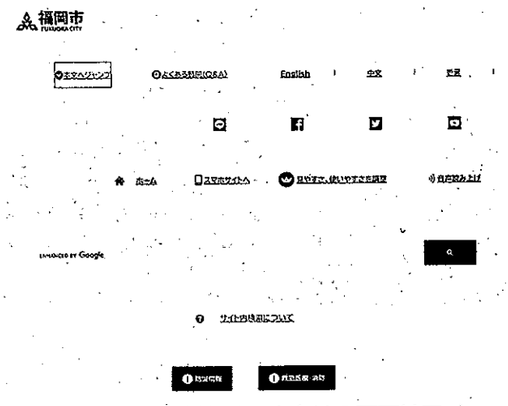
導入されているのはフランスの情報技術関連会社「ファシリティ」が現地の障害者団体などと共同で開発したシステム「ファシリティ」。視力の強弱や色覚など視覚に関わる特性のほか、手指の震えなど23種類の表示様式を選択できる。他の導入済みのサイトとも連動して機能するため、一つのサイトでいったん個人設定すれば他のサイトにも自動的に反映される。

九州の自治体では福岡市が今年3月に初めて導入した。同市サイトのトップ画面のアイコン「見やすさ、使いやすさを調整」から個人設定に進む。例えば「手のふるえがある」を選ぶとアイコンの機能が反応する領域が広がり、それぞれの間隔も広がって誤操作を防ぐ。「白内障」を選べば背景が黒、文字が白に切り替わり文字も大きくなる。

サイトを使いやすく　福岡市や民間企業

「白内障」や「手の震え」などに応じて文字の大きさ・配色・行間が変わる

福岡市の公式サイト。「白内障」を選ぶと背景が黒、文字が白に変わる



「手のふるえがある」人向けの画面はアイコンが反応する領域が周囲に広がる上、間隔も大きくなる（2枚とも福岡市提供）

コロナ禍が本格化した2020年度、福岡市サイトの閲覧数は約1億4625万件で、前年度から倍増した。市広報課は「感染状況や経済支援策を調べたり、市が関連する催しがオンラインになったりして、利用が増えた」と分析。今後、利用者に使い勝手を調査し、改善につなげる方針だ。

ファシリティは欧米では自治体や大学、銀行、医療機関など500以上のサイトが導入。日本では東京都や京都市など自治体の観光情報や企業など計19のサイトで利用されている。

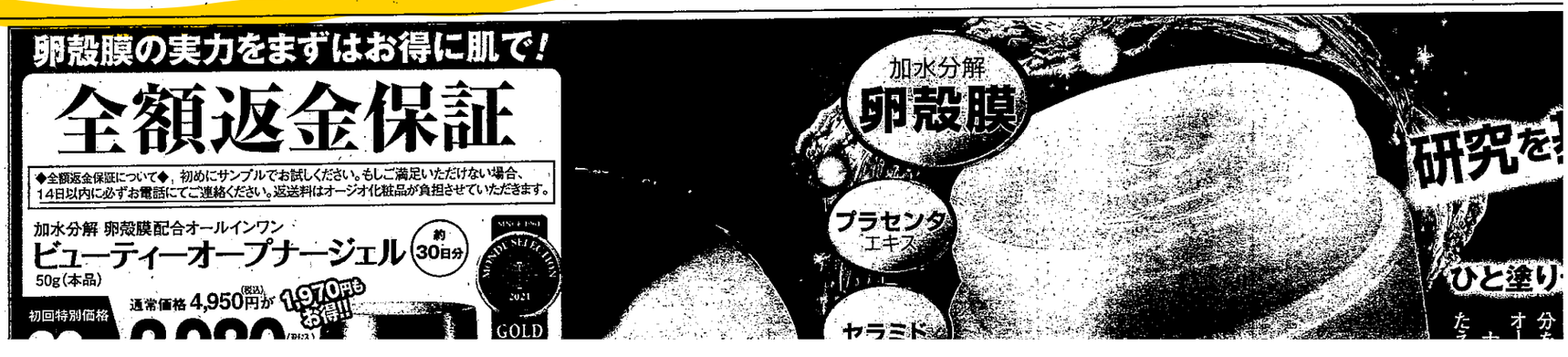
昨年12月に導入した和菓子製造販売「虎屋」（東京）は「高齢のお客様が多く、魅力的なサービスだ」。横浜市の観光公式サイトは19年4月に導入。担当者は「市はユニバーサルツーリズムを掲げ、東京五輪・パラリンピックが控えていたことも考慮した」と話す。

ファシリティ日本法人によると、コロナ禍の長期化とともに問い合わせは増加中。担当者は「インターネットを誰もが使いやすい空間にするため幅広く導入を呼び掛けたい」と話した。

看板をネット掲載し下調べ材料に　パッケージの統一表記できないか

筑波大・徳田克己教授

誰もが使いやすい仕様を目指すユニバーサルデザイン。だが視覚障害一つとっても視力の強弱のほか、視野やまぶしさ、色覚など症状は多様で必要な支援もさまざまだ。私たち社会はどのように考えるべきか。視覚障害者支援に詳しい筑波大の徳田克己教授（障害支援学）に聞いた。

視覚障害は疾患の種類や進行具合、手術歴によって見え方が異なる。水晶体が白く濁る白内障は光が乱反射して視界全体が深い霧の中のように見える。進行性の網膜色素変性症は視野が徐々に狭な穴から くなる恐 緑内障は りする。

全ての なデザイ 一部の意 と、他の たりする ば、見え 字だけで ての面白 だろう。